

期限切れワクチンの接種について

発生の概要と原因

2023 年 4 月に受診された HPV ワクチン接種 2 回目の患者さんに対して HPV ワクチン投与後、会計事務担当者より HPV ワクチン有効期限が切れている（20 日超過）ことが確認され、誤りが発覚しました。

有効期限切れの HPV ワクチン投与が発生した原因としては、主に以下の 3 点が考えられます。

(1) 通常の医薬品と異なる管理方法

HPV ワクチンは自治体の公費で行う予定であり、通常とは異なる手順で自治体から薬剤提供を受け、納品されてきました。そのため、当院薬剤部で行っている通常の管理方法とは異なっていました。

(2) 薬剤部での調剤、鑑査、払出時の有効期限の確認漏れ

医師の処方に従い、調剤者 1 名、鑑査者 2 名で準備を行いましたが、有効期限の確認は行っていませんでした。

(3) 外来診療科での準備、投与までの有効期限の確認漏れ

薬剤師から患者さんや看護師に HPV ワクチンを渡す際の確認手順や確認内容は定められていませんでした。また、診療科外来で投与されるまでに看護師 2 名のダブルチェックを実施していましたが、有効期限の確認ができていませんでした。

再発防止策

これまでの当院の医薬品管理体制では、今回の薬剤のような通常とは異なる手順で薬剤納品を受けた場合、電子的な管理対象から外れ、人の目や記録による管理となっていた状況でした。有効期限管理を徹底するため、すべての医薬品を電子的に管理し、納品から一定期間経過したものや使用頻度の低い医薬品を電子的に抽出できる仕組みを導入いたしました。

また、当該部署の職員に対し、業務手順書再確認のための動画視聴を実施し、医薬品の添付文書に記載されている保管方法、投与前の注意点を周知徹底するとともに、全職員向けの研修動画を作成し、有効期限を確認することの重要性について周知を行っております。

それに加えて、当院で運用している「業務手順書」や「マニュアル」の見直しを行い、医薬品を交付する際の確認内容と確認方法について明確に定めることといたしました。

上記のような対策を徹底し、今後も再発防止に努めて参ります。